

令和4年度第2回春日井市地域包括ケア推進協議会議事録

1 開催日時 令和5年3月30日（木）午後2時から午後3時30分まで

2 開催場所 市役所 第3委員会室

3 出席者

| | | |
|-------|-----------------------|--------|
| 【会長】 | 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター | 三浦 久幸 |
| 【委員】 | 中部大学 | 白石 知子 |
| | 春日井市医師会 | 前田 誠司 |
| | 春日井市薬剤師会 | 林 きよみ |
| | 春日井保健所 | 増井 恒夫 |
| | 愛知県認知症疾患医療センター | 柴山 漢人 |
| | 春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会 | 若月 剛治 |
| | 春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会 | 大野 哲嗣 |
| | 春日井市民生委員児童委員協議会（新） | 池田 恭子 |
| | 春日井市社会福祉協議会 | 大塚 淳弘 |
| 【欠席】 | 春日井市歯科医師会 | 川口 剛 |
| | 春日井市民病院 | 成瀬 友彦 |
| | 地域福祉アドバイザー | 南部 哲男 |
| 【事務局】 | 健康福祉部長兼健康増進課長 | 神戸 洋史 |
| | 地域福祉課 課長 | 長坂 匡哲 |
| | 地域福祉課 課長補佐 | 古川 裕樹 |
| | 地域包括ケア推進室 室長 | 山崎 俊介 |
| | | 梶原 綾 |
| | | 川島 美保香 |
| | | 早川 勝広 |
| | | 佐藤 和子 |

【傍聴者】 1名

4 議題

- (1) 令和4年度春日井市地域包括ケア推進状況報告
 - ア 在宅医療と介護の連携について
 - イ 認知症総合支援について
 - ウ 生活支援体制整備について
 - エ 介護予防について
- (2) 重層的支援体制整備事業の取り組み状況について

5 配付資料

【資料1】春日井市地域包括ケア推進状況報告

【資料1-2】令和5年度春日井市地域包括ケア推進事業の主なスケジュール（案）

【資料2】令和4年度地域ケア会議報告書

【資料3】重層的支援体制整備事業の取組状況

6 議事内容

議事に先立ち、会議は公開で行うとともに、議事録は要点筆記とし各委員が確認手続きを行った上、会長及び会長が指名する者が署名することを確認した。

(1) 令和4年度春日井市地域包括ケア推進状況報告について

【梶原主査】議題1について説明

【三浦会長】まず、在宅医療と介護の連携について、近日中に新型コロナは5類になり、その対応で保健所も忙しいと思うが、今後の地域医療についての考えを伺いたい。

【増井委員】新型コロナは5月8日から5類になるが、それに関する情報が厚生労働省から少しずつ出ており、それに合わせて具体的な対応等の県計画が連休明けに示されると思う。

【三浦会長】介護保険居宅・施設事業者連絡会（以下、「居宅連」と略す。）では、かすがいねっと連絡帳の登録が進んでいるが理由は何か。

【大野委員】居宅連の全体会で、地域福祉課と協力して登録会を開催し活用方法についても周知した。

【三浦会長】在宅医療介護連携の啓発について市民講演会は好評であったようだ。在宅医療が市民に広く認識されてきている。医師会はどのような取り組みをしているのか。会員の認識等はいかがか。

【前田委員】在宅医はなかなか増えない状況である。原因の一つとして勤務医が在宅医療についての知識が乏しいという意見が出ている。

このため在宅医療についての理解を促し、かつ利用してもらうことで、開業後にも在宅医療に関わってもらえると思う。まずは市民病院勤務医に在宅医の活用について働きかけることを検討している。

【三浦会長】病院医師は在宅医療を知らない方が多いと思う。在宅医と病院医師との顔の見える関係性が構築されていくと良い。

【若月委員】先ほどの大野委員の発言にもあったが、居宅連での登録会について、事前にアンケートを取った結果、半数の人が登録しても使っていない。

研修会前に実際に使用して便利なものであると実感した。今後も利便性等を周知していきたい。

【三浦会長】認知症について、柴山委員が9月に講演会を開催している。

- 【柴山委員】市民シンポジウムでは認知症と家族の会事務局長の鎌田さんに来ていただき169人の参加があった。認知症疾患医療センターとして、3月18日に本人と介護者の交流会を開催し、本人11人、そのうち若年性認知症の方が5人、介護者12人の参加があり、交流会で若年認知症と高齢の認知症の2人から講演いただいた。その他、初期集中支援チームの研修やかかりつけ医の講習会を行った。
- 【三浦会長】施設での認知症対応はどのようになっているのか。
- 【若月委員】居宅連では春日井ハートスクールや生活援助員の研修を行っている。施設内研修は実施しているが入所者の環境を変えていかないと周辺症状が治まらないと思う。
- 【三浦会長】薬剤師会が認知症サポーター養成講座に協力していると報告があったが。
- 【林 委員】毎年、正月明けの薬剤師会定例会に合わせて認知症サポーター養成講座を開催し、会員以外にも一般市民の参加も受け付けている。薬剤師会にいる3人のキャラバン・メイトが交代で担当している。
- 【林 委員】認知症カフェの再開状況はどうか。
- 【山崎室長】春日井市の認知症カフェは、日頃から通い慣れている喫茶店などに認知症になった後も変わらずに通うことができる、お店が認知症に理解を示し受け入れてくれるというものであり他自治体とは若干異なる。ゆえに、喫茶店として開店していれば認知症カフェとしても開催しているものと捉えている。
- 【三浦会長】生活支援体制整備事業について、訪問型サービスが増えているが、地域では生活への困りごとは増えているのか。
- 【池田委員】私の地域でも認知症の方が増えている。家族と同居の場合はよいが、一人暮らしだと民生委員などが買い物支援などに対応することが多くなってきた。病院への同行を求められることもある。ケアマネジャーと連携しているが、介護認定を受けるまでに時間がかかるので民生委員や地域住民の協力が必要である。
- 【三浦会長】そのような場合に訪問型サービスがあると有難いか。
- 【池田委員】サービスがあれば有難いが、長年地域に暮らしている方も多く地域住民が支えているような場面もある。
- 【三浦会長】使われなくなった喫茶店などを新しくサロンとして活用するような取り組みはあるのか。
- 【大塚委員】空いている民家を活用してほしいという申し出が地域福祉コーディネーターに届くこともある。各地区社会福祉協議会が地域の公民館や集会所でサロンを開催しており、それ以外で新しく喫茶店を活用して実施という話はあまり聞かえない。

(2) 重層的支援体制整備事業の取組状況について

- 【古川補佐】議題2について説明

- 【林 委員】 8050問題について言及していたが、現場で見えていても介護保険に繋がっていないケースが見受けられる。介入が難しい場合もあり支援への手立てをお願いしたい。
- 【長坂課長】 8050問題は従来から問題視され取り組まれてきた。この問題には2つのアプローチがあり、一つ目は介護保険を利用する課題解決があるが時間がかかる。2つ目は公的支援だけでは解決できないような地域のつながり・社会的孤立を防ぐためには専門職だけでなく、地域住民を交えての伴走型支援がある。今までは、80代の方は地域包括支援センターが支援しても、50代への支援は本人が望まない場合はアプローチできなかった。重層的支援が始まり生活の困りごとや生きづらさを抱える世帯全体を捉えたアセスメントができるよう、多分野の相談員を対象に合同研修会を実施している。重層的な支援体制は三師会始め地域の方々と一緒に作り上げていきたい。
- 【白石委員】 重層的支援体制整備事業の中に地域づくり支援というキーワードがあったが、地域包括ケアシステムでも生活支援体制整備は連動していると思われるが、事業として切り分けていくのか、重ねて実施していくのか。
- 【長坂課長】 重ねて実施することが、重層的支援体制整備の利点である。子ども、高齢、障がい、生活困窮の分野ごとに支援制度や相談窓口が分かれている。分野や属性を問わないで担い手や人員配置を重ね合わせいくようにしたい。
- 【白石委員】 担い手不足という課題があるが、重層的支援体制づくりの中でも進めていってもらえると期待している。
- 【三浦会長】 在宅医療介護連携推進事業について伺いたい。平成23年度から県医師会の事業として開始された在宅医療連携推進事業は高齢者だけでなく小児も対象としていたが、平成30年度から市町村で開始された在宅医療介護連携推進事業は介護保険事業を財源としており、対象が高齢者となった。今後において小児は対象としていくのか。
- 【神戸部長】 平成29年頃に春日井市医師会と一緒にコロニーを訪問し、小児への対応について協議した覚えがある。高齢者だけでなく小児についても視野に入れて考えていきたい。

上記のとおり、令和4年度第2回春日井市地域包括ケア推進協議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び会長が指名する者が署名する。

令和5年6月22日

会 長 三浦 久幸

委 員 若月 剛治